全国学力・学習状況調査の状況から

今年４月２４日に行われました、全国学力・学習状況調査の状況について、お知らせします。

学校では、この状況を全教員で共有し、今後も“わかる授業づくり”“できた喜びが実感できる授業づくり”をめざしていきます。

【各教科ごとの全般的な傾向】

国語Ａ（主として知識）・国語Ｂ（主として活用）

○国語への関心・意欲・態度は、おおむね定着している。

○話す・聞く能力は、国語Ａでは、課題が見られる状況だが、国語Ｂでは、おおむね理解できている。コミュニケーションの場を多く持つ活動が、国語 Ｂ の活用力として生きてきたのではないかと考える。

○書く能力は、国語Ａ、国語Ｂとも課題が見られる状況ではあるが、ほぼ全国と同レベル。

○読む能力は、国語Ａ、国語Ｂとも課題が見られ、読解力をさらに伸ばす必要がある。

○言語についての知識・理解・技能は、国語Ａ、国語Ｂとも課題が見られ、さらに語彙力の習得が求められる。

算数Ａ（主として知識）・算数Ｂ（主として活用）

○算数Ａでは、学習指導要領の４領域（「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のうち、「数量関係」以外は、おおむね定着していると考えられる。やや課題の見られる「数量関係」も、大きな課題があるという状況ではない。

○算数Ｂは、すべての領域で課題がある状況。

このように、Ａ問題・Ｂ問題の差ができている理由として、活用力、つまり問題をイメージして筋道立てて考え、計算式を導き出すまでの力が乏しいのではないかと考える。計算式が導き出せれば、正答への道は近いと考えられる。

その他

＊国語・算数共に、無回答率は全国より低く、努力して前向きに回答しようとする姿が伺える。

【個々の問題からの成果・課題】

○→成果の見られるもの　　●→課題と思われるもの

＜国語Ａ＞

○ことわざの意味を理解する趣旨の問題が、良好であった。語彙力を意識して　取り組んできた一つの成果ではないか。

●漢字を正しく書く問題の正答率に差があった。

魚をやく（常用漢字4年生で習得）　　バスがていしゃした（常用漢字4年生で習得）

委員会をもうける（常用漢字5年生で習得）

学年を超えて漢字の読み書きの復習をさせることが必要。また、忘れないためにも漢字の成り立ちや熟語などを自主勉強に取り入れたり、辞書をこまめに引かせたりするなど子どもの語彙

力アップに努めたい。

●文と文の意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書く趣旨の問題が弱かった。今後、授業の中でも接続詞を意識した取り組みをすすめる必要がある。

●広告を読み、編集の特徴を捉える趣旨の問題に課題が見られた。今後身近にある様々なタイプの読み物や掲示物に触れさせ、目的意識をもって読むようにする必要がある。

（例）　壁新聞　　取扱説明書　　など

＜国語Ｂ＞

○話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言する趣旨の問題は、理解されていた。これは、ホワイトボード等を使った少人数による話し合い活動を多く取り入れてきた成果ではないかと考える。

●目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く趣旨の問題に課題が見られた。今後、説明文や新聞記事などを進んで読ませたり、類似の問題を解き問題の傾向に慣れさせたりする必要がある。

●2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える問題は、かなり課題が見られた。2文を読み比べ、同じ点や違う点を考えながら読んだり考えたりする習慣化を図りたい。

＜算数Ａ＞

○どの問題も大きくできないという箇所はなかった。視覚的効果が大きいICT機器の活用・デジタル教科書により、子どもの知識・理解がより深まったものと考える。また、年度末に全学年で市販テストの平均点を見直す事により､弱かった単元を補強し底上げしてきたことも効果があったのではないかと考える。

＜算数Ｂ＞

全体的に課題が見られたが、特に以下の点は、今後活用力をどう伸ばすかを考えながら取り組みを進めていく必要がある。

●情報を整理し、筋道立てて考え、その計算の結果が何を求めているのかについて理解していたか

●単位量当たりの大きさなどに着目して､二つの数量の関係の求め方を記述できたか

●割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できたか

算数Bにおける課題を総合すると、正しい理由や判断の理由を記述できない点が最大の課題である。しかし国語A・B共に記述式は、おおむね理解できている。そのことから考えると、木曽岬小学校の子ども達は、決して記述することが苦手ではない。問題の内容をいかにイメージ化し、筋道立てて考え、計算式が導き出せれば、自ずと考えをまとめ記述ができるものと考えられる。

【質問紙調査の結果から】

○塾・家庭教師を含む家庭学習量が全国より高い。また土曜日の午前中は学校・家以外での場所で勉強している率が高い。

○家の手伝いをよくしている。

○テストで間違えた問題を復習している。

○学校が楽しい児童が９割ほどいる。

○読書時間が長い。しかし男子の読書量は低くもう少し力を入れる必要がある。
○外国へ出たり、国際的な仕事に就いたりしたいと考えている子どもが約２／３いる。インターナショナルデイの取り組みやＡＬＴとふれあう時間の長さが、子どもたちの外国人への抵抗感を下げていると思われる。
●ものごとを最後までやり遂げ、達成感をもてる児童があまり多くはない。
●平日４時間以上テレビゲーム・インターネットをする児童が多い。メディアを自らコントロールする力を身につけさせたい。

【その他】

○家の人は授業参観・運動会など学校行事への参加率が高く、学校への関心度の高さが伺える。
○予習・復習をしているという児童が多い。塾や通信教育教材などを活用している児童が多いからであろう。
●地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が薄く、地域や社会をよくするために何かを行おうという意識は低い。

【全学年での今後の取り組み方針】

☆社会や地域への問題意識が持てるよう、社会科や総合的な学習の時間などに問題提起をしていく必要がある。
☆自主学習の方法を具体的に提示する必要がある。また家庭学習の充実を推進していく。
たとえば、テスト直しの定着化や分かりやすいノートの取り方、課題解決のための道筋をノートに書く、など家庭へも学習の指針を示し、保護者の方々へも協力をお願いする。
☆語彙力を高める。学習する新出漢字などに関連して出てくる言葉の意味や反対語を考えさせることなどにより、より多くの言葉に触れる機会を持つ。
☆いろいろな教科の中で、筋道立てて考えたり、書いたり、発言したりする機会を増やす。
☆ノーゲーム・ノーテレビデーの推進。